

地球の 笑顔のために



生産・サービスの各プロセスで環境負荷を低減

● 環境負荷データ（国内）

原材料調達



主原料



副原料

原材料

35万トン



プラスチック(カップ・フィルム等)、段ボール等

包装資材

6万トン

INPUT

41万トン

東洋水産グループの生産

INPUT



エネルギー 3,033TJ

・電力 146,073千kWh

・都市ガス 27,937千m³

・A重油 3,861kl

・蒸気 111,644GJ

INPUT



補充冷媒量 4,643kg



水資源量 4,575千m³

設計・開発 包装資材の軽量化

資源の使用量を削減するため、容器・包装資材の軽量化を進めています。昨年度の主な取り組みとして、一部の即席袋麺の段ボールケースの材質を変更することにより、紙使用量を約1トン削減しました。2015年度も引き続き段ボールケースの紙使用量削減に取り組むと共に、その他の包装資材についても検討を進めます。

紙使用量を削減しても
同じ強度を維持!!



製造(福岡工場)

食品廃棄物の全量飼料化

福岡工場のチルド麺とシュウマイの製造ラインで発生する食品廃棄物は、養豚業者に引き取られ、液体飼料として利用されています。将来的には、この飼料で育てられた豚肉を原料として使用する、食の循環システムの構築を目標としています。



養豚場の液体飼料として再利用

オゾン酸化法の排水処理設備を導入

(株)フレッシュ
ダイナー
山形工場



(株)フレッシュダイナー山形工場では、グループで初めて「旋回噴流式オゾン酸化法」を用いた排水処理設備を導入しました。食品工場の排水は、有機物や油脂だけでなく、殺菌剤や洗剤剤も含まれるため、従来の微生物による処理では不安定になりやすいという問題があります。これをオゾンを用いた設備を導入することで解消しました。



製造(焼津工場) 水使用量の削減

焼津工場の魚肉ハム・ソーセージ製造ラインでは、レトルト殺菌時に使用する熱水の温度を従来より高く設定することで、温度調整に必要な水の量を削減しました。また、冷凍麺ラインでは、茹で釜や麺の冷却に使う水の配管に流量計を設置したり、清掃用ホースに手で水を止められるバルブを取り付けたりすることで、約1千トンの水使用量を削減しました。

改善項目	削減量
熱水温度調整	540t/年
流量計設置による給水量の統一	240t/年
清掃用ホースにバルブ設置	240t/年

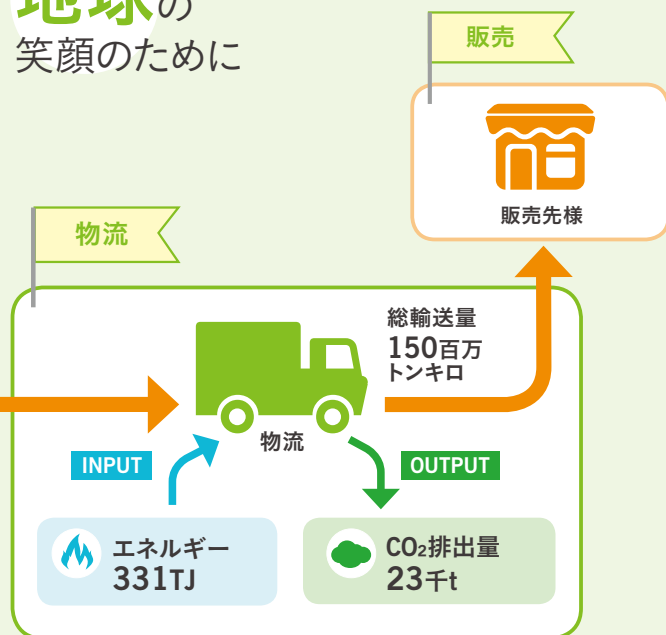
製造(埼玉工場) 排水の温度調整

埼玉工場では、麺の茹で工程や蒸し工程があるため、排水の温度が自然水温よりやや高くなる傾向にありました。放流先の水域への影響を考慮し、より自然な状態に保つため、熱回収装置や空冷式の装置を設置し、水温を下げる取り組みを行っています。



ハスが生い茂る流域の池

地球の 笑顔のために



物流

車両台数の削減・ 鉄道への切り替えの実施

チルド商品の配送では、積載効率に無駄のある配送ルートを開き出し、共同配送や配送便の集約を行うことで、車両台数の削減に努めています。即席麺の配送では、長距離輸送便のトラックからCO₂排出量の少ない鉄道への切り替えを推進しています。

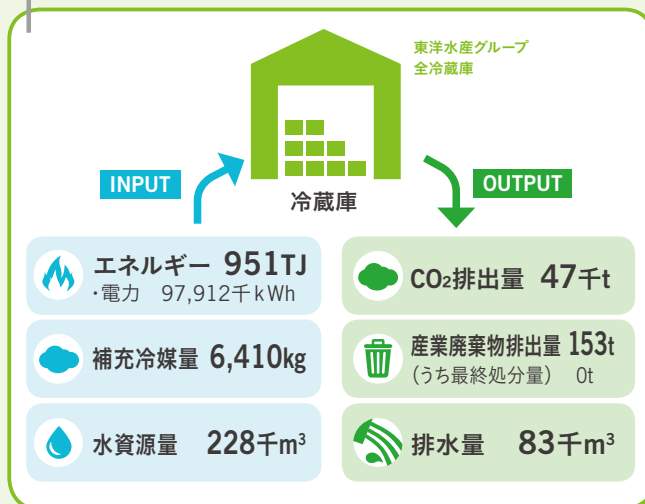
配送便集約のイメージ



冷蔵庫 環境負荷の少ない冷媒の採用

冷蔵庫の冷媒として一般的なフロン類は、温室効果の高さが問題となっています。当社グループでは、新設する冷蔵庫の冷媒には温室効果のないアンモニアを用いています。

冷蔵庫



VOICE

冷蔵庫整備担当者の声

環境に優しい冷蔵庫を目指して

冷蔵庫では環境に影響を与えるフロン冷媒を多く使用しています。環境影響の無い自然冷媒機器の導入・既設フロン冷媒機器の適切な管理を行うことで地球環境保全に努めています。



北海道事業部工務課
国井 孝宏

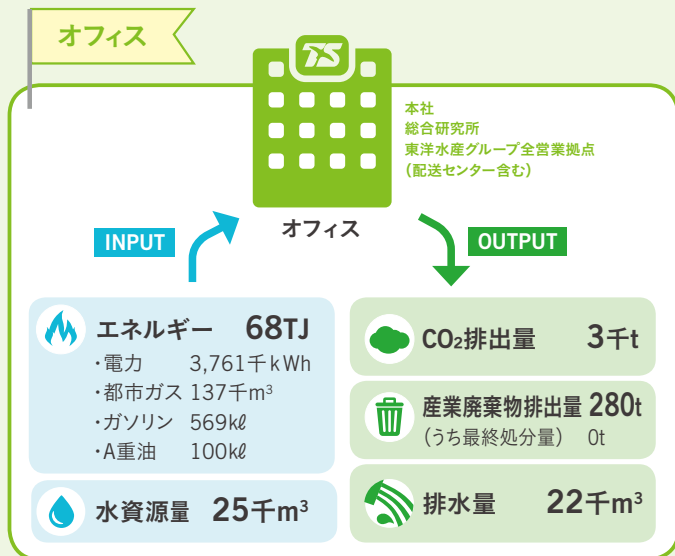
国内事業所【合計】

INPUT エネルギー	4,383TJ
水資源量	4,828千m ³
補充冷媒量	11,053kg

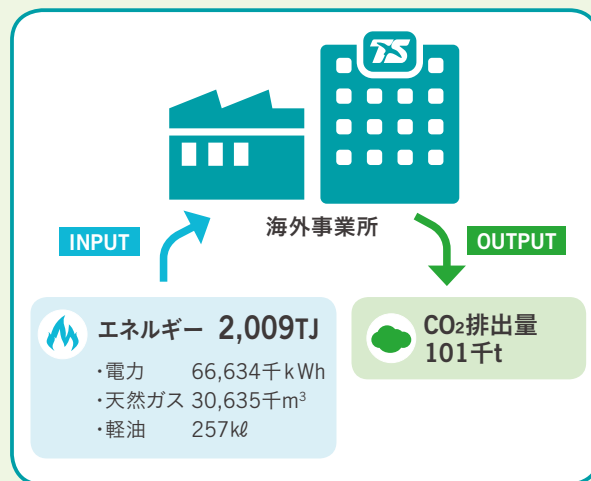
OUTPUT CO ₂ 排出量	215千t
排水量	3,310千m ³
産業廃棄物排出量 (うち最終処分量)	14,117t 21t

※ 端数調整のため、合計が合致しない場合があります。

オフィス



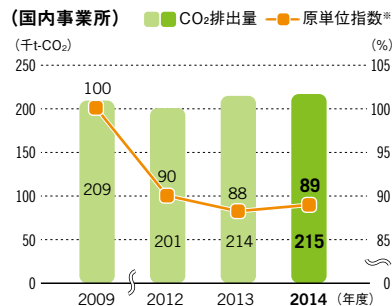
● 環境負荷データ (海外)



※ 海外事業者の電力については、GHGプロトコルの排出係数を使用。

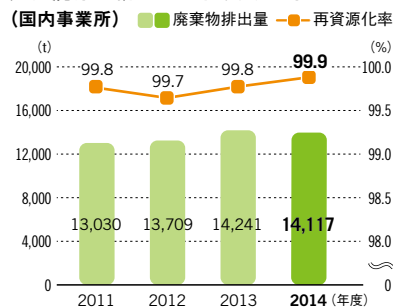
● 環境負荷データの推移

CO₂排出量と売上高原単位



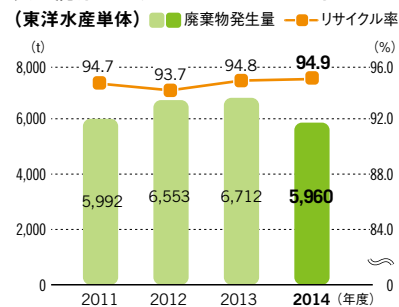
※ 2009年度を100とした指数

産業廃棄物排出量と再資源化率



● 再資源化率=1-(最終処分実施量÷産業廃棄物排出量)

食品廃棄物の発生量とリサイクル率



CO₂排出量算出の根拠

- 電力 電気事業連合会 2009年度実績に基づく使用端CO₂排出原単位 (0.351kg-CO₂/kWh) を使用
- 電力以外 温対法の換算係数を使用
- 使用冷媒 IPCC4次レポート「地球温暖化係数 (GWP)」を使用